

ヤスハラ ケミカル 環境・社会 報告書

2020

自然と暮らしを科学でつなぐ。

ヤスハラケミカル株式会社

CONTENTS

- CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
ヤスハラケミカルの事業活動とSDGs
- 会社紹介
- TOP MESSAGE
- 経営分野
中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 特集 1**
営業組織と研究開発体制の变革
- 特集 2**
フィジカル・メンタル面での健康への取り組み
- 環境・安全分野
環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
【目標達成状況】
2019年度の具体的目標と実績 / 無災害記録証授与制度
- 事業活動における環境配慮への取り組み
エネルギー使用量 / CO₂排出量 /
大気汚染物質の排出量 / 水質汚濁物質の排出量 /
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
【安全衛生への取り組み】
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /
安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 社会分野
【お客様への取り組み】
品質管理
【株主・投資家の皆様への取り組み】
株主総会 / IR活動 / 株主還元
【従業員への取り組み】
仕事と家庭の両立支援 / 健康管理
【地域社会への取り組み】
防災訓練への参加 / スポーツ支援 / 清掃活動 / 職場体験学習

会社概要

- 商 号 / ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
- 本 社 / 〒726-8632
広島県府中市高木町1080番地
- 創 業 / 1947年(昭和22年)4月
- 設 立 / 1959年(昭和34年)2月24日
- 決 算 月 / 3月
- 資 本 金 / 17億8,956万円
- 主 な 製 品 / ■テルペン樹脂事業
(テルペン系樹脂)
■化成品事業
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
■ホットメルト接着剤事業
(ホットメルト接着剤)
■ラミネートフィルム事業
(光沢ラミネートフィルム)
- 従 業 員 数 / 246名(2020年3月31日現在)
- 証 券 コード / 4957

「環境・社会報告書2020」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

編集方針

- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間
2019年4月～2020年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2021年6月発行予定です。
- 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 総務部
TEL (0847) 45-3531 (ダイヤルイン)
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。



ヤスハラケミカルの事業活動とSDGs

ヤスハラケミカルは、「自然の恵みと科学技術を融合させ、持続可能な産業と生活の向上」を目指した事業を展開しています。その中で、国連が主導する持続可能な開発目標 (SDGs) の実現においても、私たちはこれまで進んできた事業活動を継続することで、多面的に貢献していきたいと考えています。

SDGsとは、国連加盟国193カ国が2030年までに取り組む国際目標です。持続可能な社会の実現に向け、17のゴール・169のターゲットから構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

松脂や松のチップなどから得られるテレピン油と、オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルを原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、松の木から採取される「テレピン油」やオレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

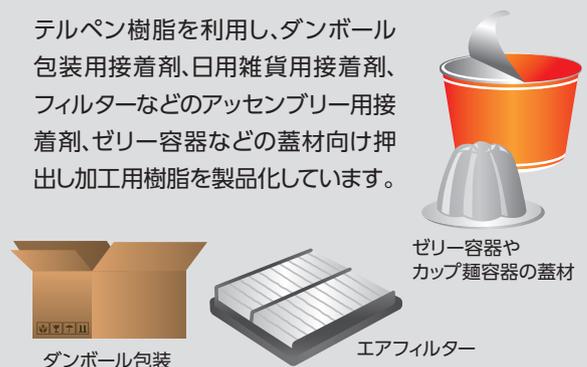
テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



ホットメルト接着剤

テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押し出し加工用樹脂を製品化しています。





国内・海外の
お客様へ

当社の作り出す製品は、
世界各地の人々の暮らしに
役立っています。

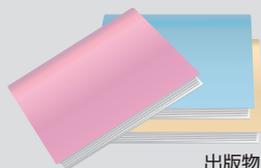


ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し出し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



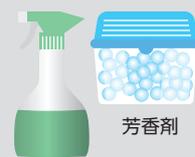
ショッピングバッグ



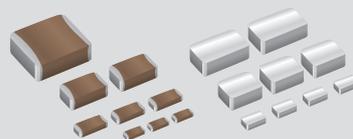
出版物

化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



洗浄剤

組織のチカラと人のチカラをバランス良く高めることで、
持続可能な社会づくりへ貢献していきます。

ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 慎二

Teiji Yasuhara



多くの情報があふれるネット社会だからこそ、
「情報を読み解くチカラ」が
ますます重要になっています。

2020年にかけて、米中の貿易摩擦や地球環境変化の影響などで世界経済・日本経済の先行きは不透明であると、一般には言われています。しかしそれらはバイアスのかかった情報であることが多く、片側からの情報だけでは実体が見えにくいことに留意しておく必要があります。

例えば米中の問題は、単に関税だけの問題ではなく次のITプラットフォームのイニシアティブをとるための競争という視点でも考えていくべきです。環境問題ではレジ袋削減対策だけではなく、再生可能エネルギーが世界では30%に達するなどエネルギー依存度の変化などにも目を向けるべきです。また新型コロナウイルスの問題では、消費や物流などへの影響ばかりに目が奪われがちですが、需要が先送りされているという視点にたてば、やがて終息した時に需要を取り込む準備をしておくこともできます。

現代はネットなどで得られる情報がますます増えています。だからこそ、片側からだけでなく反対側や別の面からの情報も得る姿勢が求められています。

「情報の共有化」を進めるために 組織の垣根を取り払い 意識を広げる変革を行いました。

ヤスハラケミカルの営業体制は、これまでは市場にあわせて営業一部で樹脂・化成品を取り扱い、営業二部でラミネート・ホットメルト製品を取り扱ってきましたが、このたび一部二部の垣根を取り払い営業組織を一つに統合しました。^(※1)その狙いは、「情報の共有化」です。

ネットで得られる情報はバイアスのかかったものが多いため、一人が得た情報だけで正しい判断をすることがとても難しくなっています。そこで組織の垣根を取り除き、より多くの人が情報を持ち寄り議論することで、判断する精度とスピードを高めたいと考え組織改革を行いました。これにより、一人ひとりが新たな市場や製品への意識や理解を広げ、自分の問題として解決していくことを期待しています。

そして次の需要を予測し発想を柔軟に広げていくことで、より強い組織にしていきたいと考えています。

^(※1) 詳細はP.9 特集Ⅲ「営業組織と研究開発体制の変革」をご参照ください。

「人のチカラ」を最大限に高めるには、 社内での健康意識を高める仕組みづくりも 重要です。

ヤスハラケミカルでは「時間単位の生産性」を高め「新たな付加価値を創造する」きっかけにする「働き方改革」の取り組みを進めています。その一環として、フィジカルとメンタルの両面から健康への意識を高める取り組みも進めています。^(※2)

仕事場で能力を100%発揮して働くには、日頃から健康を意識し体力を高めていくしかありません。それには食事バランスに気をつかうとともに、適度な運動や十分な睡眠

を取るなどして、免疫力を高めることが基本になります。

またメンタル面でも、現代のように社会が複雑化していると、さまざまな場面でストレスを感じたり落ち込んだりする時があります。そうした時に悩みを聞き解消していくシステムも必要です。

こうしてフィジカルとメンタル両面から、社員一人ひとりの健康を会社としてサポートするしくみづくりにも取り組んでおり、それらを進めることが働きがいの向上とともに、仕事の生産性を高めることにもつながると思います。

^(※2) 詳細はP.11 特集Ⅱ「フィジカル・メンタル面での健康への取り組み」をご参照ください。

冷静に客観的に 情報を読み解ける人材を育て、 スピーディーに意志決定のできる 組織づくりをめざします。

ものごとはすべて多方面でつながっており、狭い視点だけでは見えてこないことが多くあります。

情報が見えにくい例として、半導体の需要回復があります。昨年11月頃から中国・韓国・台湾では半導体不況は底を打って上昇に転じていましたが、新型コロナウイルスの影響で需要回復が一時足踏みしていたため、報道される機会はあまり多くはありませんでした。しかし半導体需要がやがて回復することに備えておくことで、回復後はビジネスを有利に進めることができるかもしれません。情報を片側からみて判断していると、肝心の情報を見逃してしまう可能性があることの好例です。

私はヤスハラケミカルを、次の時代に社会が必要とする製品をいち早く供給できる会社になりたいと考えています。それには次の時代が見える人材を育てていくことが大切です。ネット時代の今だからこそ、社員一人ひとりの「情報を読み取るチカラ」を養い、冷静で客観的かつ「スピーディーに意志決定のできる組織」をつくることで、持続可能な社会づくりに貢献できる強い会社にしていきたいと考えています。



中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化の推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性
改善

人のチカラ



グローバル
展開

新規開拓



グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

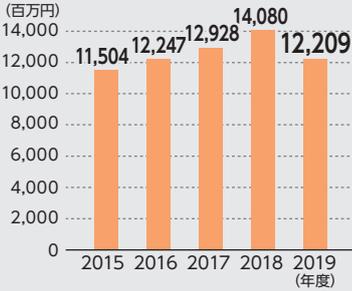
新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

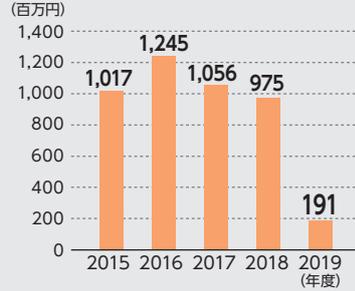


財務ハイライト

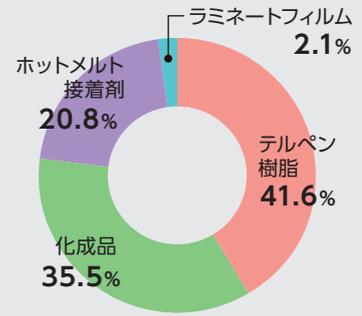
●売上高の推移



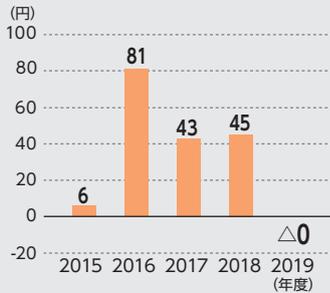
●経常利益の推移



●部門別売上比率 (2019年度)



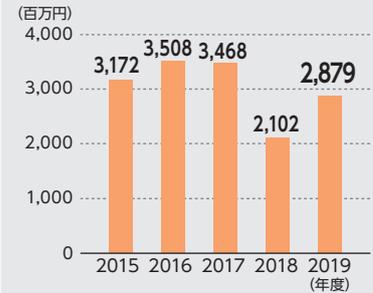
●1株当たり純利益又は1株当たり純損失 (△)



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高

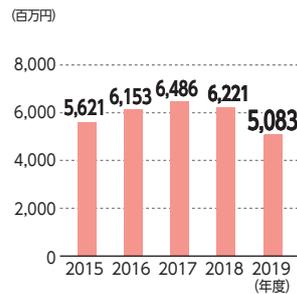


【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候性・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

●売上高の推移



化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用押し出し樹脂の実用化を進めています。また、海外法規制対応品の開発・製品化を進めています。

●売上高の推移



ラミネートフィルム

出版物や各種カタログ等の表面光沢加工用として長年実績があり、その技術を活かしサック貼り用OPPの熱ラミ加工を開始し、本事業の収益性向上を推進しています。

●売上高の推移



情報の共有化と意志決定スピード向上のために、営業部と研究部で組織の見直しを行いました。

ヤスハラケミカルでは2019年5月、営業部の体制を見直し組織改革を行いました。そして、それに伴い研究体制の見直しも行いました。今回はそれらの狙いと概要についてご紹介します。



営業部 部長
松井 和則

研究部 部長
吉舎 史晃

■ 営業部の組織改革の概要と背景

以前の営業体制は、樹脂・化成品を扱う営業一部と、ラミネートフィルム・ホットメルトを扱う営業二部に分かれていました。それを一つに統合してすべての製品を扱うようにしたのが、今回の組織改革です。

製品毎に担当者が分かれていると、他部門の製品に関する知識や経験が浅くなり、対応に時間がかかることがありました。近年はバイオマス度の高い環境対応製品への引き合いも増えている上、IT業界や自動車業界などでも大変革が進んでおり、これから大きなビジネスチャンスが予測されています。

今回営業部を一つにすることで担当者一人ひとりが、当社の強みである天然素材テルペン樹脂からホットメルト、ラミネートまでの全製品を幅広く理解しクライアントへの提案ができる体制を整えることで、より大きな成果を得られるようになるはずです。

■ 「情報共有化」の実践

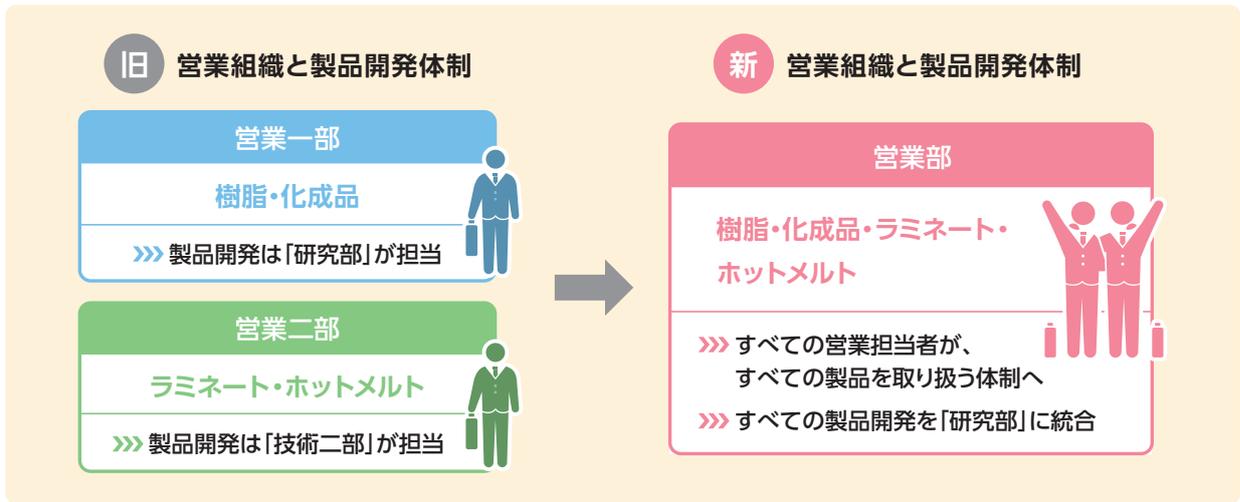
営業組織改革の狙いは、「情報の共有化」と「意志決定のスピードアップ」にあります。

そこで組織改革後すぐに営業部の若手を中心に、担当する製品に関する専門知識や経験を互いにプレゼンテーションする会議を重ねて、全員の製品知識の共有化をはかりました。さらに毎週月曜日午後には管理職も含めた営業部の全体会議を行い、業務の進捗状況を全員で確認するとともに、重点テーマに沿って新たな可能性のある市場や製品へのディスカッションを行っています。

このようにして営業部全員が自社製品への知識と理解の幅を広げていくことで、意志決定のスピードアップをはかりたいと考えています。



【営業部組織改革概念図】



研究・開発体制も全社的に統合

営業組織の改革に伴い、そのフォローである研究部門も組織の見直しを行い、全製品の研究と開発を行える体制を整えました。

これまで研究部では主に樹脂と化成品の研究・開発を行い、ラミネートやホットメルトの配合改良や新製品開発は技術二部で行ってきました。今回の組織改革に伴い、技術二部から開発担当者や開発機器を研究部に移管し、テルペン樹脂からホットメルト・ラミネート製品まで一貫して研究・開発できるようにしました。

研究部では担当する業務の量や種類が増えた結果、部内のコミュニケーションはより活発になり、研究報告書の増加や各スタッフのスキルアップなど、多方面での効果もあげはじめています。

また営業部の組織改革のおかげで、研究部内でも化学製品のサプライヤーとユーザー両方の視点で考える機会が増えたため、より多くの知識・知見・経験を得ることができるようになったと感じています。



営業部門と研究部門の組織改革で目指すもの

このたびの組織改革をとらして、部門内での取扱い製品を統合しただけでなく、部門間の連携強化もはかっています。

営業部では、研究部をはじめ品質環境保安室や総務部、経理部などとの勉強会も定期的に行い、新たな技術情報や法律や知財管理、原価計算など、幅広い知識を習得して営業のシーンで活かしていく予定です。またそうした勉強会は、営業現場からの情報を社内の他部門へ共有化する、貴重な機会ともなります。

また営業先に研究部員を同行することも定期的に行っています。これにより、クライアントからの専門的な質問や要求に対応したり、最新の情報をスピーディーに提供・提案できるようになりました。現場での成功体験は、営業・研究両方の担当者にとっても、次の成功に向けてスキルアップする貴重な機会になるはずで。

さらに研究部門でも、他部署との連携や同行営業などの新しい刺激を、研究者の研究開発力の強化に結びつける取り組みをはじめめています。

こうした営業部門と研究部門の組織改革によるさまざまな影響により、社内での活気とコミュニケーションは確実に増えています。これを継続していくことで、全社員が笑顔で仕事ができる環境づくりを目指していきます。



社員一人ひとりがいきいきと能力を発揮できるよう、 フィジカル・メンタル両面から 健康をサポートしています。

ヤスハラケミカルでは、社員がいきいきと働く職場環境をつくるために、「働き方改革」への取り組みを進めています。

今回はその一貫として取り組んでいる「健康への意識向上」についてご紹介します。



品質環境保安室 室長 藤岡 辰樹



総務部 総務課 課長 妹尾 巨

■「品質環境保安室」と「総務課」健康サポートの役割分担

当社では、主にフィジカル的なサポートを「品質環境保安室」が、メンタル的なサポートを「総務課」が担当しており、様々な取り組みの積み重ねで総合的に健康への意識向上を目指しています。

「品質環境保安室」は、社員の健康状態をしっかりと見守ることも重要な業務と考えており、法令に則った定期健康診断受診率100%の維持をはじめ、健診結果のフォローアップとして、保健師からのフィジカル的な指導の推奨、産業医から再検査の指示があった方には個別のフォローを実施しています。また、休憩時間等を利用しての軽運動を促したり、リレーマラソンやウォーキングなどの運動習慣の呼びかけなど、社員の健康づくりへのさまざまな取り組みを行っています。

一方「総務課」は、メンタル的な悩みや不安の相談窓口として、社外の保健師による健康面談を各事業所で年2回開催しています。この健康面談では、メンタル的な相談はもちろん、日々の健康に関する相談なども幅広く受け付けています。会社では話したくないような内容でも第三者へ相談することで、ストレスを軽減する一次予防に役立てています。



■ ヤスハラケミカル式「健康診断結果分析ツール」の導入

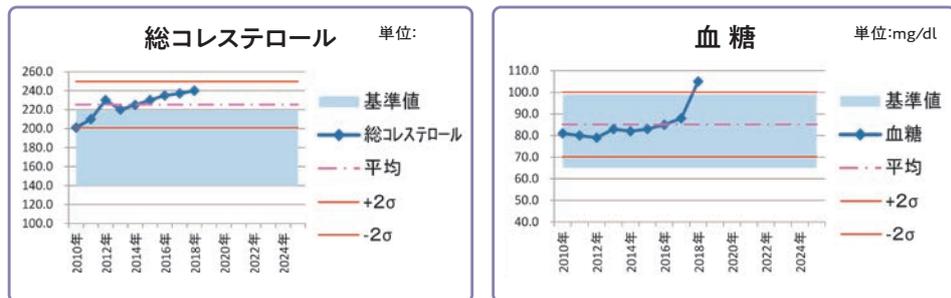
健康状態は、健康診断による多様なデータから読み解くことが一般的ですが、血圧や血糖値などの適正値は個人の体質や遺伝的要素などで異なるため、直近の受診データだけで判断するには不十分といえます。

そこでヤスハラケミカルでは、一人ひとりの長期的な変化や自身の体質を含めた異常を社員自らが早めに認識できるよう、当社オリジナルの「健康診断結果分析ツール」を作成しました。

「健康診断結果分析ツール」は、血糖値や中性脂肪など、受診結果で得られた数値を社員自らが打ち込むと、画面上に各種データをグラフで表示するというツールです。一般的な受診結果では個別の数字データが3年程度提供されるだけなのに対し、これは最長15年という長期間のデータ推移をグラフで見える化するの、少しずつ上昇する傾向にも早めに気づいたり、急激な上下動があった場合もすぐに自分で確認できるというメリットがあります。

導入は2019年9月からで、本年度はアンケート調査を実施し、活用率をはじめ使い勝手や有効な活用法などを探り、システムをブラッシュアップしていく予定です。

健康診断結果
イメージ



■ 「ストレスチェック」の導入と活用

メンタルヘルスへの取り組みとして当社は、全社員に対する「ストレスチェック」を2014年から採り入れていますが、2015年12月より労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度が施行されたことを受け、内容を見直し、現在は「品質環境保安室」が推進しています。

当社の「ストレスチェック」は、使いやすいユーザーインターフェースで、質問に回答すれば、即座に結果が出力され、自身のストレス状態を把握することができ、メンタルヘルス不調予防に役立てることができるシステムになっています。

また、集団ごと（事業所や部署単位）のストレスチェックの集計・分析により各職場の傾向を可視化することで、職場環境の改善に役立てています。

■ 「ハラスメント研修」の実施

2020年6月からのハラスメント規制法施行をきっかけに、当社でも各事業所の管理職層を対象とした「職場のハラスメント研修」を新たに実施します。

研修ではグループスタディ形式で参加者がコミュニケーションを取りながら規制法の内容への理解を深めます。またこれに加え、弁護士先生によるパワーハラスメントの事例や対策などのケーススタディを伝える研修も計画しています。これらの研修をとおして、管理者のパワーハラスメントへの意識と理解を高めていきます。そして職場のコミュニケーション環境をより良くすることで、従業員にとって働きやすい労働環境の向上につなげていきたいと考えています。

■ 社員の「健康」をさらにサポートしていくために

これまでご紹介してきたように、当社ではフィジカルとメンタルの両面においてたくさんの「気づきの場」と「相談窓口」を用意しています。そしてそれらはすべて、社員一人ひとりが自主的に行動することで、悩みや不安を解消していくことを重視しています。

これからも、こうしたサポート活動をさらに使い勝手の良いものに改善していく予定です。次の段階では、相談窓口の存在や利用法の周知を広げ、活用の輪を広げていくことで、できるだけ気軽に利用できる雰囲気づくりも整えていきます。そして自らが健康を意識し行動していく人を増やすことで、職場も家庭生活も明るく活力のあるものにしていきたいと考えています。



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

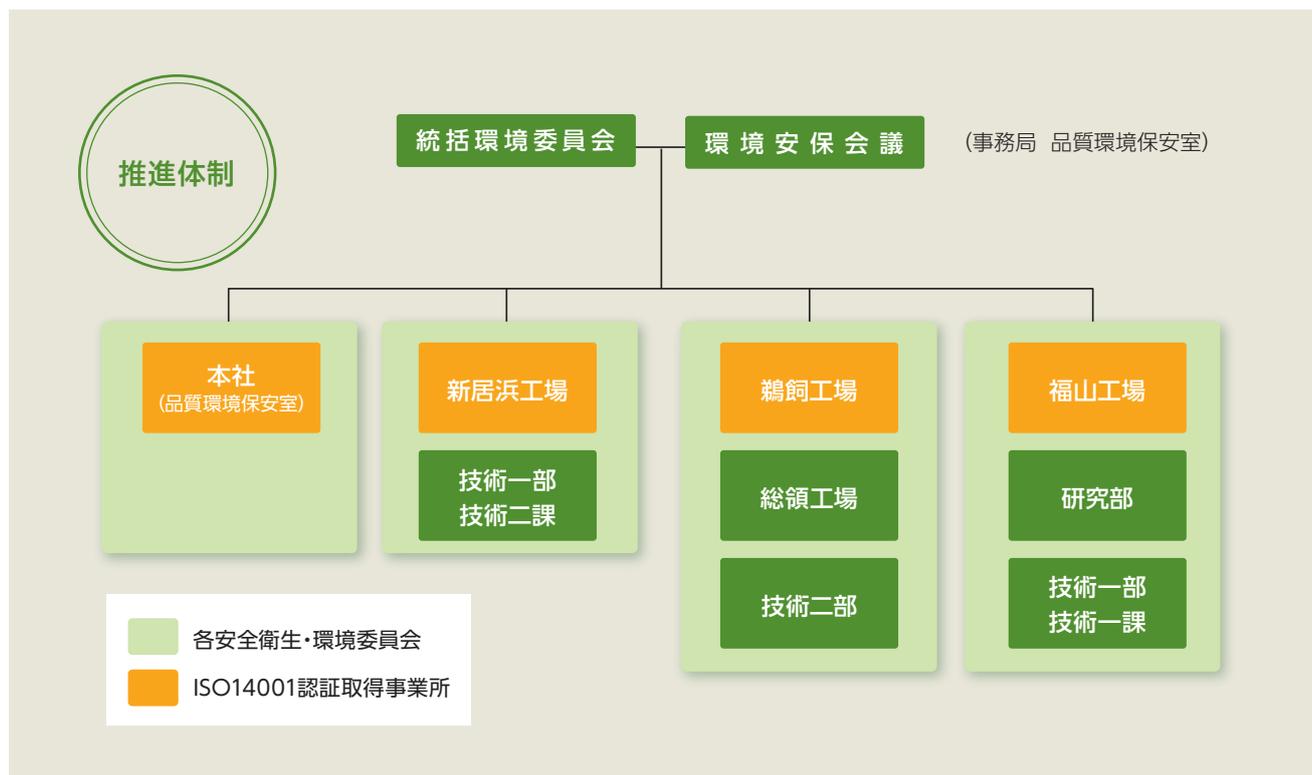
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



目標達成状況

2019年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2019年度目標	2019年度実績	評価	2020年度目標
環境マネジメントシステム(EMS)の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証更新	○	EMS認証取得3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比3.7%増加	×	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO2原単位前年度比1%削減	CO2原単位前年度比22%増加	×	CO2原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位0.6%削減	○	産業廃棄物排出原単位削減
	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量5.9%削減	○	廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量8%削減	○	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの実施	化学物質リスクアセスメントの実施	○	化学物質リスクアセスメント手法の見直し及び継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業災害・事故ゼロ	○	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

○目標を達成 ×目標を達成できなかった

無災害記録証授与制度

当社は、2002年1月より独自の制度によって、安全意識の向上を目的に、規定の連続無災害日数を達成したグループに対して安全表彰を行ってまいりました。長年この制度を運用していく中で、いくつかのグループが、この制度の規定に基づく最長の連続無災害日数を達成したため、更なる安全啓発を図るべく、2018年1月より中央労働災害防止協会主催の中小企業無災害記録証授与制度を活用することにいたしました。その結果、新居浜工場(従業員数50名)では、2019年10月5日に第1種記録(無災害記録日数600日)を樹立し、中央労働災害防止協会より記録証が授与されました。



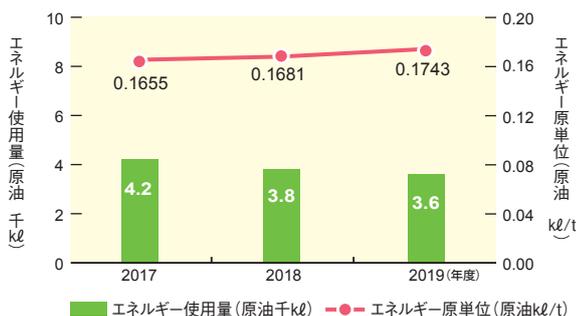
労働災害の無い、安全で快適な職場で働くことは、仕事に従事するすべての人々とその家族の願うところです。記録を継続するため、今後とも現場巡視を実施するなど、安全な職場で在り続けることができるよう、引き続き努力してまいります。

新居浜工場 工場長 河野 全秀

事業活動における環境配慮への取り組み

エネルギー使用量

2019年度は設備合理化や原料蒸留残渣のボイラー燃料活用等によりエネルギー使用量は減少しましたが、生産品目の変動等によりエネルギー原単位は前年度比3.7%増加しました。引き続き省エネルギーに努めます。



CO₂排出量

2019年度は原料蒸留残渣の活用等による燃料使用量削減を継続しましたが、生産品目の変動等によりCO₂排出量増加原単位は前年度比22%増加しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。



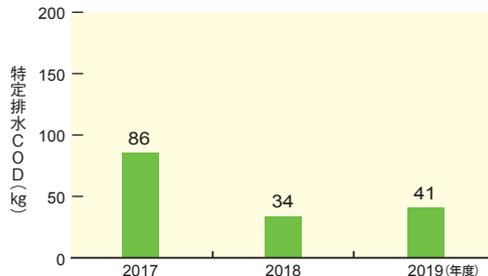
大気汚染物質の排出量

2019年度は生産量減少等に伴い、硫酸化物排出量が前年度比10%減少しました。引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



水質汚濁物質の排出量

2019年度は設備合理化を継続しましたが生産品目の変動等により、COD負荷量は前年度比21%増加しました。引き続き水質汚濁物質の排出削減に努めます。



産業廃棄物処理委託量

2019年度は生産品目変動等の影響により、産業廃棄物排出原単位は前年度比0.6%減少しました。引き続き産業削減、有価物への転換等に努めます。



PRTR対象物質の排出・移動量

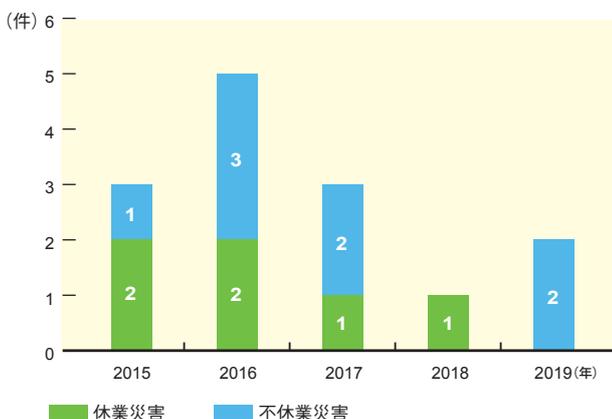
2019年度は、生産品目変動等の影響により、PRTR対象物質排出量は前年度比27%減少しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。



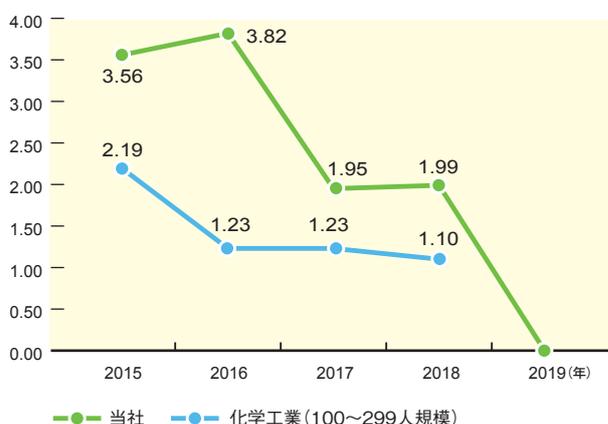
安全衛生への取り組み

ヤスハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

労働災害発生件数の推移



休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生 の頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「平成30年労働災害動向調査(統計表)一般産業第2表」(2019年11月29日公表)

安全衛生・環境に関する資格の保有者数

当社では、安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	2019年度保有者数*(名)
公害防止管理者	22
エネルギー管理士	11
衛生管理者	27
特別管理産業廃棄物管理責任者	9
ボイラー技士・整備士・溶接士	53
危険物取扱者	190
消防設備士	28
高圧ガス製造保安責任者	71

※延べ人数



COLUMN

安全衛生意識向上にむけて

当社では、従業員の安全衛生意識向上のため、スローガンの掲示・唱和や「全国安全週間」「全国労働衛生週間」等にあわせて安全衛生標語を社内募集しています。優れた作品については社内表彰するとともに、地域の安全衛生関係組織(労働基準協会等)に応募しています。

このたび、社内優秀作品について地域の労働基準協会が全国安全週間に募集した「安全標語」に応募を行ったところ、当社2名が安全関係の標語で表彰されました。表彰は、地域の企業の安全衛生担当者や労働基準監督署をはじめとする来賓が多数列席する中ステージ上で行われ、大変栄誉あるものとなりました。

このように盛大に表彰されることは、従業員一人一人にとって強い動機付けになり、継続的な安全衛生意識向上につながっていくものと考えております。



お客様への取り組み

品質管理

品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

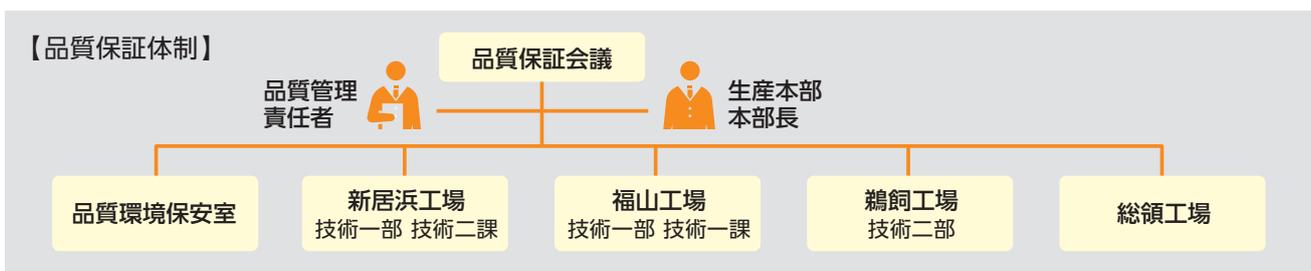
取締役生産本部本部長 栗本 倫行

ISO 9001
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、 鵜飼工場、総領工場
登録番号	JCQA-0472
認証機関	日本化学キューエイ株式会社

品質マネジメントシステムISO9001:2015を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。

品質保証活動を全社で推進するため、品質保証会議を合同で定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。



株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

当社は、より多くの株主様にご出席いただけるよう、総会を集中日より早期に開催するとともに、株主総会招集通知の早期発送ならびに早期開示を行っています。2019年6月20日に開催した第61期定時株主総会には、約50名の株主の皆様にご参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、当社の経営方針や業績予測について説明を行うとともに、株主の皆様からのご質問にお答えさせていただくなど、株主の皆様との対話の場を設けました。



IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。ホームページ内の「IR情報」における迅速な情報発信に加え、日々のお問い合わせへの対応等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実に努めます。



株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。

従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

育児や介護といった家庭の事情と仕事を両立できるよう、育児休業制度、介護休業制度、育児・介護短時間勤務制度といった両立支援制度を取り入れています。従業員への認知も定着し、また制度を活用しやすい職場環境を整えたことで、2019年度も様々な人が制度を利用しました。



制度	概要	2017年度	2018年度	2019年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで (一定の条件のもと、最長2歳まで延長可能)	2名	4名	1名
介護休業制度	要介護状態の家族がある場合、 通算93日間まで(3回を上限として分割取得可)			1名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	15名	15名	14名

》》 健康管理

毎年10月、「全国労働衛生週間」中の行事として、産業医による衛生講話を開催し、従業員の健康管理を積極的に推進しています。

2019年は、鶴飼工場、本社事務所に勤務する従業員を対象として、「インターネットの光と影～ネット依存～」をテーマに講話を行い、多数の従業員が聴講しました。仕事や家庭で何気なく使っているインターネットについて、従業員や家族が陥るかもしれないリスクをわかりやすく説明され、大変好評でした。



地域社会への取り組み

》》 防災訓練への参加

新春恒例行事である2020年福山消防出初式に、当社からは甲種普通化学消防車により5名が参加しました。当社消防隊は、危険物屋外タンク火災を想定した消火訓練に参加しました。



》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。定期的に開催される同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを込めて、本社事務所、各工場周辺の清掃を定期的に行っています。



》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受け入れを行っています。2019年は鶴飼工場に2名、総領工場に1名の中学生が職場体験学習に訪れました。



<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。